

1 学校として目指す授業

「わかる・できる」「思考する」「広げ深める」「学びを実感する」授業	教え考えさせ、深め実感する授業
-----------------------------------	-----------------

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語では、「書くこと」が全国平均を15%下回った。目的や相手を意識して、自分の考えを根拠とともに分かりやすく書く活動を計画的に取り入れ、書く力の育成を図る。算数では、全領域で全国平均を下回り、特に「数と計算」は17%、「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」はそれぞれ13%下回った。基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、図や式を用いて考えを説明する活動や、既習事項を活用する問題解決学習を充実させる。	「自分には、よいところがある」が90.5%、「人の役に立つ人間になりたいと思う」が96.9%と、自己有用感や向社会性が高い児童が多い。また、「授業でICT機器を週に3回以上使っている」が85.7%とICT機器を活用した学習機会が多い。しかし、「学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間が1時間以上」が42.9%と、学習習慣の定着に課題がみられる。家庭と連携しながら家庭学習の習慣化につながる指導をする。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

各教科の授業において「授業中は集中している」「友達や先生と学習するのが楽しい」「分かるになりたい」「考えられるようになりたい」と積極的に授業に参加する児童が8割以上であった。しかし、国語科や算数科において、「確実にできるまで繰り返し練習している」「分からないことがあればすぐ調べている」「意味を考えたり確かめながら覚えている」の質問では、4割しかできていないに当てはまらなかった。「間違えたときは、その漢字を選んで練習したり、算数では似た問題に取り組んでいる」の質問では、5割のみ該当していると分かった。すすんで学習したい気持ちをもちつつも、苦手な学習が進められない実態が見られる。授業内については肯定的な回答が多いため、授業の中で定着度を確かめながら、理解度が低い問題について授業で取り上げ指導する。既習事項の内容にも繰り返し取り組み、考えられる時間を確保した授業を展開していく。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
「体力テスト」…「運動することやスポーツをすることは好きですか」の質問に対して全学年において「好き」と半数以上が回答している。「失敗を恐れずに挑戦している」の質問に対しても、「している」「ややしている」の回答が8割以上である。様々な運動感覚を養える活動を授業でもすすんで取り入れる。「スマホやタブレットの使用時間」が3時間を超える児童が増えているため、学習とのバランスの指導も行う。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・書く力を伸ばすために、各教科において、文例を示す等の工夫をすることが必要である。 ・学習した内容についての定着を図るために、朝学習を活用したり、定期的に復習させたりすることが必要である。 ・家庭の協力が得られにくい児童について、家庭学習を習慣化させるために、GIGA端末の活用を推進することが必要である。

4 学校全体の授業改善の視点

・基礎的・基本的な学習の定着をベースに、指導のねらいが明確で児童にとって見通しがもてる意図的・計画的な授業を展開する。 ・教師が教える時間と児童が考え他者と交流する時間を意図的に設定し、児童が主体的に学びを深めるねらいを達成できる授業を展開する。 ・GIGA端末の活用をさらに推進する。（デジタルとアナログのベストミックスを目指す）
--

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。 ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。 ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>教育指導課へ提出する。</u> ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	順序のマークやサイドライン等を活用し、言葉の動作や言い換え等を通して理解を深める。				具体物や視覚的教具を用いて、問題の場面を理解してから立式につなげるよう支援する。				生活の中で感じたことや気づいたことを、絵や文、動作、思考ツールを活用して表現し、実感を伴った理解につなげる。		曲調やリズムを感じながら、児童が楽しんで学習に取り組むよう支援する。		めあてや手順を板書し、完成品を見せたり、イメージを膨らませたりしてから作品作りを始める。				多様な特性のある運動遊びを通して、諸感覚の醸成を図る。				道徳的価値について、教材提示を工夫し、動作化、話し合いの場を設定することで考えをもたせる。	
中学年	自分の考えを根拠とともに書く活動を計画的に取り入れるとともに、友達との交流を通して表現を見直す機会を充実させる。		自分の考えや疑問をペアやグループで話し合う機会を意図的に行い、児童の思考を広げる。		問題文に線を引かせたり図をかかせたりすることで、問題の場面を理解できるようにする。		実験・観察を行う前の予想を大切にし、比較させることで考察する思考力を向上させる。				常時活動でまわりとコミュニケーションを取ることで、安心して歌える場をつくる。		活動内容やめあてを板書して授業の最初に説明し、児童が見通しをもって授業に参加できるようにする。				それぞれが楽しめる場を設定し、活動の充実を図る。授業後には学習カードなどでめあてに基づいて振り返りを行う。		歌やゲームなどを通して、英語に慣れ親しみ、表現の仕方を繰り返し行うことで、進んで尋ねたり、答えたりできるようにしていく。		教材を基に、道徳的価値について自己の経験を振り返らせ、他者と共有する。共有する中で教師の支援を受けながら納得解を各々が導き出し、これからの生活で実践しようという意欲をもてるようにする。	
高学年	児童が「読みたい」と思うような学習活動を設定し、その活動に沿った手立てを行う。		資料提示や学習展開の工夫により、児童が学習内容を自分事として捉え、主体的に追及していけるようにする。		問題文を数直線図などに表させて、問題の意味理解を深めさせる。		理科的な問題解決の過程を意識した指導を行う。実験を通して科学的な思考力の向上を図る。				合唱のバーと練習を児童主体にするなど、効果的にグループ活動を取り入れる。		ねらいにそった有効的な学習活動を考える。グループ活動を取り入れ、主体的協働的に学ぶ姿勢を育む。		動画等を活用し、活動を視覚的に捉えやすくすることで安心して活動できるようにする。		楽しみながら技能を向上させ、日常化できる活動を行い体力向上につなげる。		ALTと連携し、発音や基本表現に繰り返し親しむ活動を充実させるとともに、英語でのやり取りの中で、相手に伝わるように工夫して表現する力を育てる。		道徳的価値について自己の経験を基に議論し、互いの考えを受け止めたうえで、自分の考えや実践意欲が持てるように、発問を工夫する。	